



市立大学SCU
地域魅力発掘し隊

挑戦の証は、翌日の筋肉痛



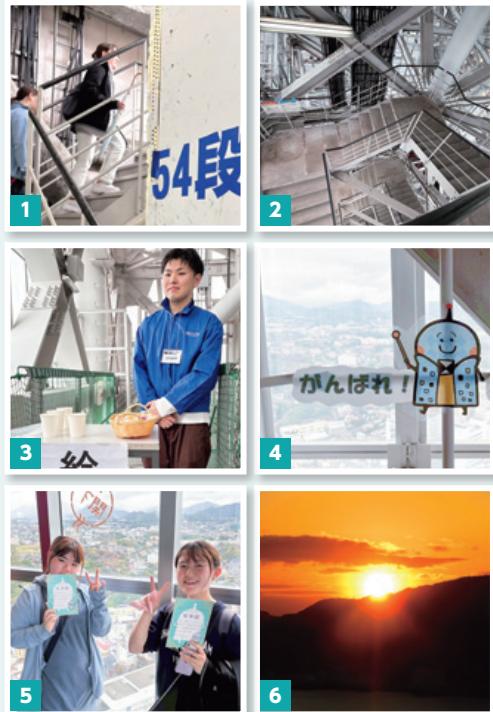
11月9日に開催された「熱血！オーヴィジョン海峡ゆめタワー階段のぼり 2025」に参加してきました。平成27年から毎年開催されている、体を動かして楽しむ年に1度の人気イベントです。今年は子育て応援特別企画「子ども連れ入場料無料キャンペーン」もあり、来場者数は例年よりも多く、424人が挑戦しました。

実際に私たちも階段を登ってみましたが、想像以上の段数で大変でした。神出鬼没に現れる「ゆめたん」の応援メッセージ、そして給水所で配られる水分と糖分に助けられながら、ついに登頂。登り切った時の達成感と、そこから見える景色はいつもと違って見えました。翌日には筋肉痛が襲ってきましたが「挑戦して良かった」と思える景色だったので、来年はぜひ皆さんも挑戦してみてください。ちなみに私たちは約15分で登ったので、この記録を破ってみてくださいね。

海峡ゆめタワー職員の伊東瑠奈さんは「1月は初日の出の観覧でにぎわいます。毎月楽しいイベントを用意しています

で、ぜひご来館ください」と話します。

階段チャレンジで？ 初日の出を見に？ ふつと思い出したときに？ 次はあなたの番。143mの展望室でお会いしましょう！



YAMAGUCHI HIROMASA

豊田地域 山口 弘将 隊員(やまぐち ひろまさ)

令和6年11月に地域おこし協力隊に着任。築125年の古民家で「飲食×宿泊×農業」をコンセプトに、交流拠点の整備・運営に取り組む。「想い出さないか市」「ジビエフェスin螢街道西ノ市」では実行委員として活動中。

人と地域をつなぐ 「里山まるごと体験拠点」

私が地域おこし協力隊として活動する中で気付いたのは、この豊かな里山の資源が、使われないまま眠り、少しづつ失われていく現実でした。耕作放棄地や空き家は増え、高齢化により担い手は減り、行政や地域組織だけでは手が回らない。そんな現状を目の当たりにして、ただ見ているだけではいけないと思いました。

一方で、私のように都市部から来た人にとっては、ここでの暮らしや風景は新鮮で魅力的に映ります。だからこそ、都市部の人々が関わり、学び、応援できる仕組みをつくれば、資源の再生と関係人口の増加が同時に実現できると確信しています。このプロジェクトは「下関市ふるさと起業家支援」の認定事業として登録し、ふるさと納税制度を活用した寄附募集をしています。皆さまからのお力添えに感謝しています。詳しくは、QRコードかInstagramで、ぜひご覧ください。



下関市地域おこし協力隊員は
11人です(12月11日現在)



古民家・納屋・蔵 ため池 山林・竹林

